

令和5年度障害者スポーツ推進プロジェクト

(特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業)

事業報告(概要版)

大分県
令和6年2月

令和5年度の取組の目的と概要

取組の目的

県内で3か所のモデル地域を設定し、特別支援学校と地域が連携するスポーツ活動の場づくりに係る試行の実施及び検証を通じて、当該校の部活動の地域移行や近隣校の障がいのある生徒等が身近な地域でスポーツできる場づくりを推進する

取組の概要

- 1 県内支援学校の実態把握・実行委員会の立上げ
(構成団体) ・関係行政(県関係所属、市町村担当課)
 - ・障がい者スポーツ団体
 - ・総合型地域スポーツクラブ統括団体
 - ・特別支援学校校長会
 - ・専門職団体(理学療法士、作業療法士)
 - ・医療機関(パラスポーツ外来)
- 2 モデル地域の設定(3か所)
(大分市) ・大分支援学校(陸上部)
 - ・さくらの杜高等支援学校(運動部)
(別府市) ・南石垣支援学校(陸上部)
- ③ 特別支援学校と地域が連携したモデル的取組の実施
(大分市) 全9回(うち平日3回、休日6回)
(別府市) 全3回(うち平日2回、休日1回)

取組①-1:実行委員会(大分県障がい者スポーツ推進会議)

構成団体 (48団体)

県関係課(2/障害者社会参加推進室、障害福祉課)
県教育委員会(3/体育保健課、特別支援教育課、社会教育課)
市町村担当課(18/障がい福祉又はスポーツ担当課)
特別支援学校校長会(1)
総合型地域スポーツクラブ統括団体(1/SCねっとおおいた)
障がい者スポーツ競技団体(20/陸上ほか)
専門職団体(2/理学療法士協会、作業療法士協会)
医療機関(1/明野中央病院パラスポーツ外来)

開催詳細

開催日時 令和5年8月24日(木)13時30分から15時
協議内容 障害者スポーツ推進プロジェクトの進め方について
県内支援学校等の実態の共有と意見交換



取組①-2:個別協議(陸上競技地域移行モデル打合せ)

構成団体

事務局(2/障害者社会参加推進室、障がい者スポーツ協会)
競技団体・地域団体(2/大分陸上競技協会、別府陸上教室)
特別支援学校
(3/大分支援学校、さくらの杜高等支援学校、南石垣支援学校)

開催詳細

開催日時 令和5年12月18日(月)16時から17時
協議内容 陸上競技等地域移行モデル開催の具体的方策
その他意見交換



取組②-1:大分支援学校陸上部・平日モデル

開催詳細

開催日時 令和6年2月5日(月)15時10分から16時10分
開催場所 大分支援学校・体育館(雨天のため)
実施内容 陸上競技
参加者数 11名(大分支援学校生徒のみ)
指導協力 大分支援学校教員1名、大分陸上競技協会所属指導者3名



開催詳細

開催日時 令和6年2月10日(土)16時から17時
開催場所 野口原競技場(別府市)
実施内容 陸上競技
参加者数 22名(うち、南石垣支援学校生徒13名、その他OB等9名)
指導協力 南石垣支援学校教員1名、大分陸上競技協会所属指導者1名



取組②-2:さくらの杜高等支援学校運動部・休日モデル

開催詳細

開催日時 令和6年2月11日(日)10時から11時30分
開催場所 さくらの杜高等支援学校・体育館
実施内容 サッカー
参加者数 17名(うち、さくらの杜高等支援学校生徒10名、その他近隣校生徒7名)
指導協力 さくらの杜高等支援学校教員1名、障がい者サッカー団体7名

実施の様子



取組②:その他今後の取組予定

開催詳細	大分市: ① 2月24日(土)大分スポーツ公園サブ競技場/陸上競技 ② 2月25日(日)さくらの杜高等支援学校体育館/バスケットボール ③ 2月26日(月)さくらの杜高等支援学校体育館/ボッチャ等 ④ 3月9日(土)大分スポーツ公園サブ競技場/陸上競技 ⑤ 3月16日(土)さくらの杜高等支援学校体育館/バスケットボール ⑥ 3月18日(月)さくらの杜高等支援学校体育館/ボッチャ等 ⑦ 3月23日(土)さくらの杜高等支援学校グラウンド/サッカー 別府市: ① 2月19日(月)野口原競技場/陸上競技 ② 2月26日(月)野口原競技場/陸上競技
------	--

取組③:県内支援学校の実態把握

取組詳細	県内17校の特別支援学校に聞き取り調査を実施し、部活動の実態や課題について意見交換を実施
主な実態	○ 部活動を実施している学校は全11校 ○ 部活動の頻度は10校が週1回、1校のみ週2～3回 実施時間帯はスクールバス発車後の時間(1時間程度) 等
考察	○ スポーツをしたいというニーズは少なくないが、アクセスの課題があるため、休日活動の方が参加者が一定数確保できる可能性が高い

見えてきた成果と課題、今後の方向性：

主な成果

- 県内17校の特別支援学校のうち11校で運動部活動が行われているが、実際のモデルを通じて、各学校の部活動をベースに地域の指導者が協力する場づくりは可能
また競技の専門指導者と特別支援学校教員が連携することで、より高度なトレーニング提供も可能となり、競技力の向上も見込める
- 休日モデルは、当該モデル校生徒のみならず、他校特別支援学級生徒等も参加があり、一定のニーズが確認できたとともに、その対応策としての有効性も確認

主な課題

- 当該校生徒も含め、アクセスに課題を抱える生徒（自力通学や家族等の送迎不可等）に対する有効な対応策が未だ見いだせていない

今後の方向性

- 送迎等の手配は極めて限定的かつ実施者への負担が大きいため、他の特別支援学校での実施や社会福祉施設等他の地域資源への汎化が重要（選択肢を増やす）
- 身近な地域という視点では、市町村レベルで特別支援学校や総合型地域スポーツクラブ、障害者スポーツ団体等が連携したスポーツに係るネットワークの構築が重要
- また、身近な地域でスポーツできる場づくりを進めることは、障がい当事者がスポーツを通じて地域との繋がりを持ち、共生社会の実現に向けても極めて重要